

地方創生カレッジにおける育成を目指す人材像

	育成する人材 及び人材像	求められる要件	習得を図る知識・スキル・コンピタンス		
			知識	スキル	コンピタンス
			ある仕事や学習分野に関連する、事実・原則・理論・実践の集まり。事実や経験を一般化したモノや現実の本質に関する原理など  例：営業担当として必要な知識 マーケティング知識、業務管理知識がある	知識等を適用して仕事を完成し、問題を解決できる能力。傾聴、プレゼン、対話などの基本的なモノや、組織、交流、分析面に関するモノなど  例：営業担当として必要なスキル ニーズ把握、プレゼンテーションスキルを身につけている	仕事や学習状況、専門的・個人的な発展・成長において、知識、スキル、個人的・方法論的な能力等を使いこなす能力。いわば、成果を生み出す総合的・実践的な能力 例：営業担当として必要なコンピタンス 顧客や市場の開拓、販促アプローチと受注ができる
地域全体 & 分野横断的な推進	総合プロデューサー  ⇒特性を活かす地域の全体戦略を構築、それをふまえ事業を構想し立ち上げることができる  ★上位者（経営幹部、副市長レベル） ⇒地方創生に関する戦略に関して主導的に発動。 地域全体を俯瞰し、地域資源を駆使した、ビジョン・戦略の策定・展開、事業の構想や推進基盤の整備・拡充を統括的にリードし、首長等を補佐。  ★中位者（部長レベル） ⇒リーダーや上位者の補佐をし、ビジョンや戦略策定の材料を収集分析。戦略や事業構想をうけ、具体的な事業戦略・計画の策定すると共に、事業・組織をマネジメント、外部協力者との協働を図りながら事業を効果的に推進。	1. 地域戦略の構築・事業創出 ① 地域戦略の実証的構築  ② 戦略をふまえた事業構想（戦略の具体化）  ③ 統括的な事業推進・管理	経営戦略、データ分析・活用、コアコンピタンス、ファイナンス、地域の公共政策・産業政策、税収・社会保障、資金調達・管理、財務諸表、投資採算、収益管理、マーケティング、質・量的目標(KPI)、インキュベーション、地域公共サービス、コンプライアンス ※地方創生の主要分野における事業化のポイント（観光、6次化、まちづくり等）	比較優位・SWOT <sup>1</sup> 等分析手法、関係者に対する議論喚起・意見聴取・取纏め、戦略ストーリーの策定、展開上課題抽出、戦略書の作成・提案  収益分析・3C分析 <sup>1</sup> 手法、事業シミュレーション、事業・収益基本計画の作成・提案、プロジェクトチームの組成	首長はじめ関係機関トップへの根回し・連携づくり、地域への問題意識喚起・ベクトル合わせ  自治体や関係機関との連携深化、地域資源の結び付け、事業推進にむけた条件・体制の整備
	地域コミュニティリーダー  ⇒事業計画をブレイクダウンし、地域コミュニティの潜在力を引き出しながら事業を実践リードすることができる	1. 事業のブレイクダウン・推進 ① 事業目標計画ブレイクダウン ② 事業推進マネジメント ③ 地域のコミュニティデザイン	地方自治体の経営（政策決定・公会計・地方自治等）、民間企業の経営（意思決定・会計・ガバナンス等）、PFI、PPP	推進課題の把握・解決、事業評価のチェックとローリング	関係者への動機づけ、参画マインドの醸成
	分野別プロデューサー  ⇒個別分野を軸とした事業戦略を構築し、事業推進の仕組づくりと推進をリードできる  各分野に特化した習得アプローチ ・観光分野(DMO人材) ・まちづくり分野 ・6次産業化・地域商社分野 ・地域企業の経営強化	1. 分野に特化した事業戦略構築 ① 強みを活かす事業戦略の構築  2. 戦略の事業化と経営力の発揮  ① 事業の構想と展開・発展	戦略から事業展開・行動計画への連関、市民自治・住民参加、チーム・人のマネジメント、マネジメントサイクル、ガバナンス、リーダーシップ、ストレス対策	官と民との双方のエージェント（“共通言語”の下）として関係調整	官と民との連携体制づくり、民への合理的な権限委譲を仕掛け

※「知識・スキル・コンピタンス」の定義は、『EQF（欧州資格枠組み）に対する欧州議会・欧州理事会合同勧告（2008）付属文章I』を参考

<sup>1</sup> Strengths（強み）、Weaknesses（弱み）、Opportunities（機会）、Threats（脅威）の観点から自組織を評価する手法

<sup>1</sup> Customer（市場・顧客）・Competitor（競合）・Company（自社）の観点から現状分析を行う手法